



教会で大道芸のパフォーマンスに見入っています

バプテテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第187号

発行責任者  
 社会福祉法人 バプテテスト心身  
 障害児(者)を守る会  
 重症心身障害児施設 久山療  
 育園重症児者医療療育センター  
 理事長 山田 雄 次  
 編集責任者 梅 木 光 男  
 福岡県糟屋郡久山町大字  
 久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

## 『久山療育園への期待』

元理事 松藤 一作

今年3月まで、法人理事として久山療育園の働きに不十分なながらも関わらせて頂いてきました。

4月からは日本バプテテスト連盟宣教部の働きにあたることとなり、久山療育園の働きの一線から身を引くことになりました。しかし、これからは、日本の教会における福音宣教の働きに携わる中で、久山療育園が開園以来目指してきたテーマを引き継いでいきたいと考えています。

教会の宣教の働きは、出会いや出来事が起こされる現場にこそ、そのテーマがあることを強く感じさせられています。久山療育園が果たしてきた役割は、重症児者とその家族にとって必要なテーマであるだけでなく、教会とキリスト者にとっても、大変重要な宣教課題の一つでもあります。教会がいのちはどう寄り添い、関わっていくことが出来るのか、また、そこで起こされた出会いから、共に生きるという内実をどう起こしていくことが出来るのかを、久山療育園は真剣に取り組んでこられました。久山療育園が『キリスト教信仰』に基づいて運動が起きたことは、決して偶然ではなく、むしろ必然だったのだと思わされます。

久山療育園は、昨年開園40周年を迎えました。今、大きな転機を迎えているように感じています。経済を最優先しようとする国

政における福祉削減政策はもろろん、それに呼応するように起きた昨年の「津久井やまゆり園」での悲劇など、私たちがこれまで「いと小さき者」として受け止めてきた人たちのいのちと生活が脅かされています。こうした深刻な時代の中でこそ、教会は預言者的、地の塩的、世の光的働きを担わねばなりません。ところがより一層深刻なのは、そうした働きを担うべき教会が今や弱体化し、その課題を見失い、取り組むべきテーマを見失ったり、見誤ったりしているのではないかと強く感じさせられていることです。

久山療育園が、重症児者とその家族を支える働きの拠点であるのと同時に、キリスト教会に対しても、その宣教テーマを指し示していくような運動体であり続けてくださることをこれからも期待しています。

バプテテスト教会から生み出された久山療育園が、教会の宣教課題を共有しながら、教会と共に歩む久山療育園であって欲しいと願っています。

「新しい福祉社会づくりの拠点」を目指す久山療育園の働きは、なお途上にあります。重症児者とその家族からの要請があり、またこの世の逆風があり、そして主からの使命がある限り、この働きは続けられなければなりません。そのためにも、何を最優先課題として選びとっていくのかを決して見誤ることなく、その働きが主において祝され導かれるものとなることを切に祈っています。

主張

「久山療育園の創立の理念に立ち返って」

理事長 山田 雄次

■はじめに■

今年度から社会福祉法人改革が施行される訳ですが大切なことはその中で私たちが久山療育園の設立の精神と理念を心に刻んで事業の推進と運営にあたってゆかなければならないということです。新しい歩みを踏み出すにあたってもう一度振り返ってそのことを再確認する必要があると思ひ私の認識を述べさせて頂きたいと思ひます。

(老)の療育園の建設を決議しました。

重症児者と共に生きる福祉社会の実現に向けたバプテスト教会の祈りに基礎づけられて久山療育園は誕生したのです。そのことを押えたうえで久山療育園の設立の精神と理念について三つのことを触れさせて頂きたいと思ひます。

■一、重症児者のいのちを守り「共に生きる」ことを課題として開設された施設であること■

重症児者のいのちを守り「共に生きる」という課題を担う決意は社会福祉法人バプテスト心身障害児者の設立発起人総会の設立趣意書の中で「重荷を負った両親の苦労に連帯し共に生きることを願いここにこの組織を社会福祉法人として設立しその第一の事業として重症児者の為の療育園を建設することを決意しました」とその思いが表明されています。この決意には背景として法人設立時とそれ以前に重症児者が置かれていた厳しい状況があったという事は否めません。法人の設立発起人総会の趣意書には「そのような重症児がかかえた家庭が冷たい無理解な目の中で社会的に孤立してしまい、両親の老齢化と重症児の肉体的成長に伴いその世話の限度に思ひ余って親子心中するというケースが後を

絶たない現状」が訴えられています。趣意書での訴えは決して誇張ではなく、久山療育園の開設に向けた取り組みを進めてゆく過程で「死ぬ時は子どもと一緒に」ということを、保護者から聞かされていまして、事実私自身も牧師時代教会の隣の重症児者(老)家庭での親子の無理心中事件との遭遇を体験しており、厳しい認識をもっています。

障害児(老)福祉の歴史において重症児(老)はいわれのない差別を受けて来ました。60年前重症児施設の開設を求めて保護者が国会に陳情した時「国のために役に立たない者に大切な税金は使えない」という冷たい対応を受けたのは昔の話しと思ひましたが昨年7月に相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」において「生産性のない者は生きるに値しないのちである」として元職員が19名の入所者を殺害した事件が起こり、障害者に対する差別意識が一層深くなっていることを再認識し憤りを覚えました。

人がその能力や身体的条件によつてその存在を否定されたり無視されることはあつてはなりません。「重症児(老)と共に生きる」ということは重症児者の存在とそのいのちが天与の恵み(創世記2:7)に依るものとして尊ぶということであり、聖書のことばから導かれる至上の課題です。久山療育園は重症児(老)と共に生きること

■二、センターとして開かれた施設であること■

久山町に受け入れが決まつて「これから」という熱い思いをもつて施設の開設に向けた準備を進めてゆく中で私たちが作る施設は「出入自由の施設」ということが合言葉になつていました。今日重症児(老)施設は長期(契約)入所、短期入所、通所利用と、そのニーズによつて多様な形で活用されていますが制度的にそのような使い分けが行われていなかった時代においては開かれた施設を目指す先駆的な理念であつたと思ひます。

久山療育園は開設のはじめから収容形施設ではなく地域に開かれた独自の理念が込められた施設であつたことを覚えていたいと思ひます。開設後全国で始めて通園モデル事業が全国5ヶ所の重症児者施設ではじまつた時それに参画し、開かれた施設として以後一貫して在宅支援の課題に取り組み、更なる強化をめざして2015年度創立40周年の記念事業として「在宅支援センター」を開設しました。創立30周年記念事業として旧園舎の全面改築工事を行いそれを機に2008年名称を「久山療育園重症児者医療療育センター」と名称を改称しました。センターとは重症児者が社会の中心に位置づけられ地域で家族や地域の人たちと共に生きることが出来る福祉社会を紡ぎ出す働きをなすものであり、重症児者の医療療育センターとして自らの機能の強化を計るとともに地域協働の課題への参画も視座

に入れた開かれた施設を目ざしているということ。 ■三、重症児者が地域の中心に位置づけられて生きる新しい福祉社会づくりの拠点としての施設であること■

「設立の目的」に「重症児者が地域の中心に位置づけられること(新しい福祉社会の実現)を願う」と記されていますがこれは単なる願望ということではなく何年かかつても「実現を期す」という目的を示すことばだと理解しています。開設期に久山療育園のビジョンを語り合う中で「福岡市を久山療育園にする」という発言があつたことを記憶しています。私は当時コロナ友の会に身を置く中で久山療育園は福岡市と隣接した地域にあつて保護者、コロナ友の会との協働において重症児者福祉の社会化の実現を期する運動体としての側面を持つている特別な施設として在ることを認識し、今日に至っています。

重症児者が地域の中心に位置づけられ共に生きる福祉社会の実現を期すことは至難な課題だと思ひますが究極の目標として今後の事業の展開の指針としてゆくことは課題意識を高めるという意味で重要なことだと考えます。

重症児者のいのちを守り「重症児者と共に生きる」福祉社会づくりを目ざす久山療育園のはじめの理念を再確認し、社会福祉法人改革ともからむポスト40年の歩みをしっかりと踏み出したいと願うものです。

制度・情勢

# 「社会福祉法改定と久山療育園の事業及び財政計画」

センター長 宮崎 信義

はじめに

平成28年度(2016年度)に「社会福祉法一部改定」が施行されました。社会福祉法は、1951年に制定された「社会福祉事業法」が約50年ぶりに改正され「社会福祉法」となりました。改正の骨子は、①改革の必要性(少子・高齢化や国際化の進展、低成長経済への移行、家庭機能の変化)、②改革の理念(社会連帯の考え方に立った支援、尊厳ある自立への支援、自助、共助、公助による個性ある福祉)、③改革の具体的内容として、社会福祉事業の範囲の見直し、社会福祉法人の役割・意義・公的助成の在り方、質と効率性の確保、地域福祉の推進という総論的には格調の高い福祉基本法でした。

しかし、社会環境の変化や公益法人の一部が期待に合致しないために、平成28年度に社会福祉法が一部改定され施行されましたが、これは経済的な必要を主とした規制が強化されたものと理解されます。久山療育園重症児者医療療育センター(以下「センター」「園」)では、社会福祉事業への再投下や地域還元の具体的な取組である「在宅支援センター」が平成27年7月に発足し、その働きの充実と地域ニーズへの対応、高齢化する重症心身障害者及び家族の支援を拡充している段階です。以下に園の事業計画と改定された社会福祉法の内容との整合性について述べます。

## 施策の変遷と久山療育園の対応

①「障害児者施設・事業の一元化」についての考察・改定児童福祉法と障害者自立支援法(現在は障害者総合支援法)との児者分離制度の過程で「障害の一元化」が強調されてきました。しかし、「二元化」「一般化」は区別しない(差別しない)「統合教育等の積極的な人間(人権)肯定の意味がある場合がある一面で、誤用されると個々の掛け替えのなさや個性(個別性)が軽視されるという危険があります。重症心身障害の領域でも「特殊疾患療養病棟」(包括性)の導入の際に、医療度や医療療育の質によらず包括的に支払われることは「してもしなくても同じ評価(報酬)」という限りなく墮落させる危険性を覚えて、当園では「病棟傾斜配置」

に致しました。また「重症心身障害に特化する」という意味は、悪しき一元化や個別性に対する反証であり、差別ではありません。実際、その医療・療育・福祉の個別性が維持されなければ、生存が脅かされる方々です。どうか御賢察願います。

②重症心身障害児(者)の個性・特性の理解と共生・支援

先ず重症心身障害児(者)の個性・特性を理解し、合併症の予防や診療上「治療を目指す医療」に努力しますが、特に外科手術などはご家族に説明した上で、重症児者本人の苦痛の軽減と機能の回復を重視します。苦痛除去のための非侵襲的医療は積極的に行います。酸素療法、吸引・吸入、排便調節、抗痙攣剤ほか対症療法はしっかりと行います。緩和ケアの段階と判断された場合はご家族に説明し同意を得た上で「制限的医療」「緩和的医療」「看取りの医療」に徹します。そしてどのような病期にあっても、絆の尊重を大切に、家族やボランティア・職員との面会・交流を支えます。

③「療育病院」であること・久山療育園の「医療療育」「児者一貫」

(1)重症心身障害医療は、一般医療(急性期・慢性期・療養的要素)だけでなく、「療育病院」であることが求められています。つまり重症児者の医療福祉ニーズ

(必要性)を基軸とした医療であり、医療倫理や利用者の人権を尊重した「支える医療」「共なる医療」ということが出来ます。この考え方は当園の創立理念に基づいています。

(2)「療育病院」としての重症心身障害施設としての役割を明確にし、入所契約入所・措置入所・短期入所)及び通所事業における健康管理・療育(活動やリハビリテーション)・介護・補装具の処方・障害児(者)歯科を実施致します。「チーム医療」から「チーム療育」への広がりや協働が必要で、一般に契約入所病床は通常は満床ですから短期入所病床を活用し、地域医療との連携に努めます。その他の地域の社会資源と連携すると共に、「在宅支援センター」においても、近い将来「訪問リハビリ」「訪問看護」「生活介護事業」「訪問診療」を体系化して行きたいと願っています。

(3)重症心身障害に特化した医療福祉施設としての役割を堅持することは、児者分離や療育的視点が失われていく傾向に抗して重症児者中心の姿勢を継続することです。全国重症心身障害児(者)を守る会で主張されている地域に根差した「いのちを守る最後の砦」としての入所機能を、実状を見ずに障害者の権利の侵害と見なしたり、社会保障の制限に繋がらないことが大

切だと思っています。また同時に「在宅支援三本柱」(通所・短期入所・訪問)の確立は、地域の重症心身障害児(者)支援の核となる働きです。私たちの働きの対象である重症心身障害児(者)と向き合い「特化する」とは特別視ではなく、はつきりと認識すること、「共に生きる・生かされる」ことです。

④利用者(重症児者+家族)の必要の吟味

(1)「支える医療」「共なる医療」(2)「チーム医療」から「チーム療育」へ、(3)「重症心身障害」に特化した医療福祉施設としての役割を堅持致します。

⑤「在宅支援三本柱」の進展と小児医療の充足。「移行期医療」すなわち小児科医と内科医等との連携を重視致します。18歳になつたから小児科医の役割は終わるのではなく、重症児(者)の必要を中心にして内科医等と連携したいと願っています。

⑥利用者の年長化・高度化への対応。(1)合併症と外科的処置(地域医療連携、(2)骨折防止等。(3)児童発達支援及び障害児医療の取組。(4)NICU(新生児集中治療室)・GCU(成育医療室)・小児病棟から家庭までの医療と療育に広がる療育病院としての役割。(5)短期入所病床の活用(在宅支援の目的で1~2床を月単位のローリングベッドとして活用する。

⑥各職種の理解とスキルの上・奨学金制度の活用。学会・研究会・講習会への参加の促進

**社会福祉法改定と事業の整合性**

今日の医療福祉制度の変遷

①施設運営のガバナンス(統治性)の確立・強化と地域連携(行政も優遇税制を受ける公益法人の資格審査にガバナンス(統治性)と組織の明確化を求めています。(1)特に事務管理部門の整備と「在宅支援三本柱」を担う地域療育部の拡大深化を進めます。(2)ライン(組織構成)とスタッフ(委員会組織など)における園内の事業の分担協力を更に円滑していきます。

②事業運営の透明性の向上…会計の明確化と外部監査人に委託し、運営上の課題と持続可能性を図ります。

③地域における公益的な取組を実施する責務及び行政の関与の在り方…これまで通り、「相談支援専門事業」の受託、「糟屋中南部自立支援協議会」事務局の機能を継承致します。

創立40周年以降の久山療育園の在り方と方向性

法改定で「社会福祉充実残高」と言われている資金は、園の経費削減などの経営努力の他に創立以来40年間に亘るコロンニー友の会や諸教会・地域か

らの献金からなるもので、そのおかげで2008年の施設全面建て替えと2015年の在宅支援センターの設置が可能となったものです。さらに今後は重症児(者)中心の施設経営を行う中で、今後の施設将来計画を立てています。その骨子を以下に述べます。

①重症・心身障害児(者)の生命の尊厳と人権・生活の質の保持・所得補償に対する支援(共助)。

②経営組織のガバナンスの強化・医療・福祉人材の確保と育成の促進。託児所建設。「研修センター」建設。

③社会福祉事業への再投下(在宅支援センター)の充実と地域ニーズへの対応。高齢化する重症心身障害者及び家族の支援。

④地域還元…「地域防災センター」としての機能。

途上にある在宅支援プロジェクトの推進と新しいビジョンの策定

①「在宅支援三本柱」の推進…重症心身障害児(者)通所事業…成人(生活介護事業)＋児童(児童発達支援)の拡充。短期入所事業…在宅を支える要として。相談支援員・看護部・診療部との連携。訪問リハビリテーション等の訪問事業の推進。

②新生児集中治療室(NICU)「継続保育室」「回復治療室」「成育医療室」(GCU)「小児

病棟との連携…在宅重症児(者)の必要を受けて、地域移行支援の受皿として中長期滞在型一時入所病床2〜3床増床の可能性の検討。

③重症心身障害児者の家族と共にあるコミュニティ形成の可能性…(1)経営努力と支援者献金の蓄積の結果である社会福祉充実高の活用。(2)久山療育園重症児者医療療育センターを核とした未来志向の福祉計画。(3)重症者ホーム」に続く「要介護家族ホーム」計画。

おわりに

以上、平成28年の創立40周年事業が継続していく中で、社会福祉法の改定が施行されました。期せずして当園の理念に従って実践していた将来計画と合致致しましたが、これからも法制度を尊重しつつ、「重症心身障害児(者)と共に」創立理念を忠実に実践して参りたいと思います。



## ロジテム九州さんからの贈り物



「今年もありがとうございます！」

今年もロジテム九州さんからうれしいお話がありました。『利用者の方に何かプレゼントをしたい。利用者の方が、よく使うものを考えて欲しい』ということでした。

これまで毎年、パルスオキシメーターや血圧計等、利用者さんに必要な医療機器をお送り頂いています。今年は何にしようかと病棟師長と相談し、持ち運びが出来る吸引器にしました。電源があればどこでも吸引が出来る機器です。これがあれば利用者さんがより安全に療育に参加したり、過ごしたりすることが出来ます。

4月19日ロジテム九州の会社の方が4名お見えになり、吸引器と、使用の状況の他、園内も見学され病棟や通所の利用者さんを見て頂きました。来年はより多くの社員の皆様に来て頂き、皆でお礼を言いたいと思います。

(看護部長 吉本法生)



藤田 英彦

わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4:18

私たちのバプテスト心身障害(児)者を守る会久山療育園が1967年に発足して40周年を迎えました。先般、その記念の会が開かれましたが、もう一度「久山療育園」創立の理念を確認したいと思います。「我々は、重症身障児者に愛の手をという精神で久山療育園を設立した。重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、地域社会の中心に位置づけられることを願う。従って久山療育園は単なる収容施設でなく、新しい福祉共同体づくりの拠点である」としてⅡコリント4:18を聖句として掲げました。その当時は口語訳でした。

この4章18節の聖句は16節の「だから」に始まる「わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えてゆくとしても、『内なる人』は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べ物にならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」に続く言葉です。更にこれ

は、7節の自分自身を「土の器」とし、10節「わたしたちは、いつもイエスの死を体にまといます。イエスの命がこの体に現れるために……」を受けた言葉です。

使徒パウロは自分を「土の器」と言います。パウロはかつて自分の育ちの良さ、優秀さを誇りにかけて「地の民(アンダーグラウンド)」と言われたクリスチャンを迫害することに息を弾ませていました。しかし、その途中で復活のイエスに出会い、イエス・キリストが、自分自身を救うことなく、他者を徹底的に愛して十字架に架けられて贖いとなり給い、3日目に復活され新しいのちを示されたことを知り、信じて彼自身の生き方が根本的に変えられ、フィリピ3:7以下にあるように、地位や名誉、誇りを「塵芥と見なす」ようになります。

そして「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます……。」に続いて(Ⅱコリント4:16, 17)に続いて「見えるものではなく……。」というのです。

「見えるもの」現在のモノ、地位や名誉、誇り、利害でなく、「見えないもの」を見る。この「愛の手」「福音の窓」を見ても解らない。ただ「ああ、ああ……」としか声を出せない重症児者の「言葉」、見えない家族の「嘆き」「苦しみ」に目を凝らして見つめ、愛、希望、永遠のいのちに目を注ぐのです。「ひさやま」は、そこに毅然として立ち尽くすのです。

メモ帳

【1月】

- ▽6日「地域生活支援拠点整備についての協議」久山町、篠栗町、志免町より担当者来園(6名) / 九大医局訪問▽10日特別支援学校始業式 / 新水巻病院ケースワーカー来園(3名) / 児童相談所ケースワーカー来園(2名)▽12日平成28年度法人監査・立入指導(7名来園)▽13日認定看護師研修会(13日、15日) / 県医療指導課環境改善係来訪▽15日公開講座「重症児者の口腔管理」(参加者80名)
- ▽16日福岡市障がい者施設支援課来訪(5名)▽25日福岡特別支援学校授業参観
- 【2月】
- ▽14日第一生命保険来園(2名)
- ▽2日柳川療育センター事務局長来園(他2名)▽4日認定重症心身障害看護師九州地区研究会 研修▽8日ひなたや来園・見学(2名)▽13日福大医局訪問▽25日コロンビアの会主催チャリティーコンサート(参加者160名)▽15日福岡特別支援学校 高等部入学試験▽16日西南学院大学ポランティア研修(参加学生11名

【3月】

- ▽6日バプテスト福祉協議会 理事会
- ▽2日療育体験研究発表会
- ▽3日筑紫野保健所 医務官研修(2名) / 福岡特別支援学校高等部卒業式(4名)
- ▽4日九州重心研究会(17名参加) / 九州外国語学園来園・見学(4名)
- ▽10日慶北(キョンブク)障害者総合福祉館 職員見学(25名) / 福岡特別支援学校 小中学部卒業式(2名)
- ▽13日「ゆーいち&あやめ」による音楽会▽14日新水巻病院へ訪問▽16日福岡特別支援学校修了式▽29日福岡高等看護専門学校見学実習 36名教員3名)▽31日消防署の立ち入り検査(3名来園) / 北九州地方連合少年少女会 春の修養会 久山療育園研修(参加者15名、引率5名)

・職員1名▽17日精華女子短期大学 広報課来園(1名)▽24日新水巻病院より来園(1名)

**2017年度(平成29年度)予算**

2017年3月28日(火)開催の2016年度第6回理事会において2017年度の予算が審議され承認されました。  
 予算の概要については、以下の通りとなります。

**2017年度 資金収支予算書**

自 2017年4月1日 至 2018年3月31日

科目名	2017年度予算額
《事業活動による収支》	
(収入の部)	
児童福祉事業収入	3,254
障害福祉サービス等事業収入	491,433
医療事業収入	758,833
経常経費寄附金収入	23,020
受取利息配当金収入	2,116
その他の収入	5,112
事業活動収入計①	1,283,768
(支出の部)	
人件費支出	1,033,673
事業費支出	139,286
事務費支出	98,509
事業活動支出計②	1,271,468
事業活動資金収支差額③=①-②	12,300
《施設整備等による収支》	
(収入の部)	
施設整備等補助金収入	4,700
施設整備等収入計④	0
(支出の部)	
固定資産売却支出	42,000
施設整備等支出計⑤	42,000
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	△37,300
《その他の活動による収支》	
積立資産取崩収入	50,000
サービス区分間繰入金収入	82,150
その他の活動収入計⑦	
積立資産積立支出	25,000
サービス区分間繰入金支出	82,150
(支出の部)	132,150
積立資産積立支出	25,000
サービス区分間繰入金支出	82,150
その他の活動支出計⑧	107,150
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	25,000
予備費支出⑩	0
当期資金収支差額合計⑪=③+⑥+⑨-⑩	0
前期末支払資金残高⑫	306,853
当期末支払資金残高⑬+⑫	306,853

**1.前提条件**

社会福祉法改正の本格的導入の年であり、当法人としても、経営ガバナンス及び内部統制の強化・充実、財務基盤の確立と透明性の向上など組織や体制・仕組み等を大幅に見直す時期を迎えている。

また、今後5カ年にわたって「社会福祉充実残額」の計画策定と進捗管理も並行して実施するなど従来の事業計画を大きく変化しなければならない状況下にある。

今後職員の処遇改善を含む人材への投資、サービス向上につながる建物・設備の充実、地域ニーズに対応した新サービスの展開などがより一層求められている。

**2.策定にあたっての基本方針**

(1)内部留保金が「貯める時代」から「有効活用する時代」へと変化したことにより、単年度収支管理と中長期事業計画との整合性を図る。

(2)当面収支均衡型の予算を模索し、収支動向を慎重に見極めつつ対処するとともに、社会福祉充実残額の進捗管理を着実に実施する。

(3)将来を展望したサービス向上に資する為、2016年度に引き続き人材(財)確保及び職員の処遇改善を積極的に行う。

(4)営業外収入(寄付金等)を有効活用するために、基金化を検討するとともに従来の枠を越えた支援の輪を広げる活動を推進する。

**3.具体的内容**

(1) 収入の部

・ 概ね昨年度並みの水準の計画で策定し収入合計13億3,800万円とした。

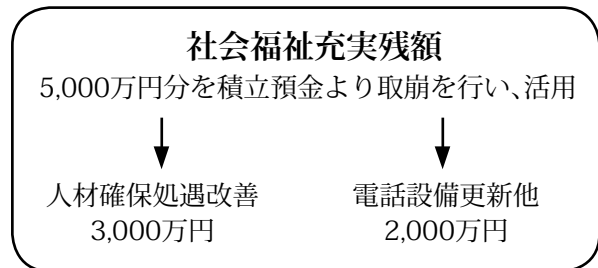
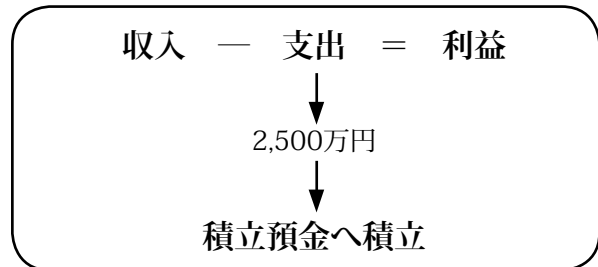
・ 記念行事等が終了したため、寄付金等を平年度ベースの2,300万円として計上した。

(2) 支出の部

上記方針に基づき支出合計13億1,300万円(昨年度対比1億2,400万円増)とした。

・ その内訳として、人件費7,700万円増、事業費300万円増、事務費1,200万円増、固定資産取得支出3,200万円増となった。

**2017年度 予算枠のイメージ**



ご協力ありがとうございました

(2017年1月1日〜3月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

江頭敦子、日本バプテスト連盟山形キリスト教会、仙台バプテスト教会幼稚園、田中晶矩、日本バプテスト連盟めぐみのその幼児園、みつば幼児園、小池幸子、富野バプテスト教会、二日市栄光キリスト教会、企救バプテスト教会、日本バプテスト苅田キリスト教会、日本バプテスト第二幼稚園、日本バプテスト連盟日野神明キリスト教会、日本キリスト教団松戸教会、筑紫野南キリスト教会、西南学院バプテスト教会兄弟会、水戸バプテスト教会女性会、(学)西南学院西南学院中学校母の会、(学)西南学院西南学院高等学校母の会、福岡女学院中学校、逗子第一バプテスト教会、豊前キリスト教会、神愛幼稚園、在日大韓基督教会博多教会、関東学院中学校高等学校、西落合キリスト教会、認定こども園市川幼稚園、ひかりの家学園、法蓮寺仏教婦人会、入江すずこ、(学)三育学院東京三育小学校、青山学院中等部、日本バプテスト連盟南光台キリスト教会、西南学院小学校、日本基督教団東村山教会、天使幼稚園、岡久凱、日本バプテスト連盟広島西キリスト教会、(学)西南

学院、日本キリスト教団東郷教会こどもの教会、同志社中学校宗教部、日本基督教団福岡中部教会、日本キリスト教団八幡西教会、高知伊勢崎キリスト教会、松藤一作、福岡女学院看護大学宗教部、(宗)日本基督教団福岡城東橋教会、手作品売上げ、井上清美、瑞穂キリスト教会、第一生命労働組合福岡総合支部、(学)稚内ひかり幼稚園、聖路加国際病院礼拝堂、西南学院高等学校、山口正夫、いのちの冠福岡教会、日本バプテスト連盟久留米キリスト教会、児湯キリスト教会、栗田昌枝、宗教法人長住バプテスト教会、柳元京子、八幡バプテスト教会、(学)西南女学院、関西学院宗活動委員会、日本キリスト教会門司大里教会ふどうの木、豊前キリスト教会、(宗)平尾バプテスト教会、西南学院大学チャペルクワイヤ宗教部、日本バプテストシオン山教会、青山学院初等部、日高みどり、阿部直子、福岡女学院教会、若松バプテスト教会、捜真女学校高等学部・中部、恵泉バプテスト教会、栗ヶ沢バプテスト教会、(宗)日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会、豊前キリスト教会、(学)西南学院西南学院高等学校、(学)西南学院

西南学院中学校、日本バプテスト福岡城西キリスト教会、防府バプテスト教会、久山町組合助成金、福田眞治、北九州キリスト教会、日本バプテスト連盟豊橋キリスト教会、百合丘キリスト教会、日本キリスト教団隠岐教会、大牟田バプテスト教会、日本バプテスト女性連合、福岡女学院大学宗教部、田隈バプテスト教会ユニアの会、日本バプテスト連盟堺キリスト教会婦人会、愛隣幼稚園

【法人】 指定献金 嘉久明子 (以上3,000,000円)

【重症者ホーム】 一般献金 井手伸昌、山田雄次、久山療育園事務所、福島啓子、川野直人、自動車売機売上献金、久山療育園献金箱 (以上110,448円)

【施設】 一般献金 早川ふみ子、西南学院大学汀寮、日本バプテスト小倉バプテスト教会、林俊明、自由ヶ丘キリスト教会、友学園女子中等高等学校奉仕委員会、筑紫野天拝坂キリスト教会、田川賢二、ウエスレアン・ホーリネス教団福岡エルシオン教会、

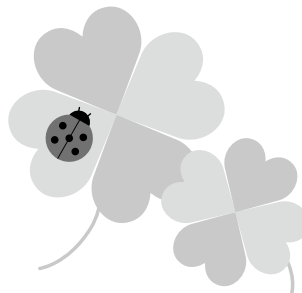
沖村典子、池田三国、有吉宏拳、福岡女学院幼稚園、安部登美子(財)福岡YWCA、直方バプテストキリスト教会、いづみの会 (以上280,921円)

【献品】 高信義(はがき)、懶たな設計堺きよみ(タオル他)、宮内千鶴子(はがき)、児湯キリスト教会(タオル他)、小笠原香子(紙オムツ)、田口和子(料理道具他)、高橋香代子(布袋他)、中田赫子(マフラー他)、平京子(石けん)、上尾キリスト教会女性会(タオル他)、富里キリスト教会女性会(食食用エプロン)、林晃一(車椅子)、高尾尚子(ポーチ)、ガールスカウト福岡県連盟はかた地区(タオル)、ライオネスクラブ高岡とみえ(タオル)、日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会女性会(食食用エプロン他)、高知伊勢崎キリスト教会女性会(半タオル他) (以上4,583円)

【バプテストコロナ友の会】 9/12〜12/1分街頭募金、北海道バザー献金、友の会献金 (以上2,968,632円)

【コロナ友の会扱い献金】 門松本蟻ヶ崎キリスト教会、千葉バプテスト教会、福岡ベタニア村教会、仙台長命ヶ岡キリスト教会、

合計 1,242,572円



## 2016年度第40回療育体験発表会

## 演題1「安全な唾液低圧持続吸引の検討」

めぐみ看護①研究班

唾液の誤嚥がある利用者が使用している口腔内低圧持続吸引のチューブによる口腔内トラブルや苦痛が軽減し安全な実施できるよう疑似体験を行いチューブの新しい固定方法を実践した。新固定法や本人の苦痛の軽減に対する評価は難しい結果となったが、これからの気道管理の手段としての向上や標準化が必要となつてくる。

## 演台2「認定重症心身障害看護士の認知度調査」

認定看護研究班

日本重症心身障害福祉協会は平成22年に認定制度を開始した。九州地区では平成25年度に研修が開始した。当センターも4名が受講し、現在3名が認定重症心身障害看護士の資格を得ている。認定看護士の課題や役割を明確にする為制度、役割、学習内容、活動内容について説明し調査を行った。今後は認定看護師が活動しやすい環境作りや研修や教育の場に参画する事が必要となつてくる。

## 演題3「リハビリ表の作成と手技の統一及びリハビリ日常化への取り組み」

重症者ホームひさやま研究班

ホームが開設して一年半が過ぎ、入居者の生活も安定してきたがリハビリに補助が必要な利用者の拘縮や関節可動域が低下し利用者の関節可動域、運動機能低下の予防及び拘縮予防の目的でリハビリが日常的に継続して実施できるよう、リハビリ表を作成し取り組みを実施した。リハビリ表の掲示によって統一されたりリハビリを行えるようになりスタッフの意識の向上にも繋がった。今後継続して行なっていく必要がある。

## 演題4「動く重症心身障害者における排便コントロールに向けた取り組み」

ひかり看護研究班

水分摂取量の低下・抗てんかん薬の副作用など様々な要因で便秘を引き起こしやすい。今回排便蠕動を促す為腹部マッサージ、温熱効果により腸管神経を刺激し腸蠕動を促温罨法排便時に腹圧をかけるための腹筋を鍛える他動的体操を選択し実施した。数値的結果は出なかったが、処置後の排便がスムーズであった。今後は、排便困難を引き起こす要因について様々な角度から考え、取り組んでいく必要がある。

## 演題5「SPIDERはオムツ交換の介護負担軽減に有効か」

リハビリ研究班

重力に対する適応障害を解決するため、体重免荷装置「The SPIDER (SPIDER)」を股関節が開きにくく介助負担感が大きい入所者10名に使用しオムツ交換の介助負担軽減に有効かを検討した。VASでは9名中6名に改善が認められた。そのうち1名に有意な改善が認められた。ROMでは、股関節屈曲可動域では18肢中9肢、股関節外転可動域では18肢中3肢、股関節外旋可動域では18肢中3肢に有意な差が認められた。MASでは実施前後で18肢中16肢の筋緊張低下が認められたが有意差はなかった。オムツ交換介助負担感においては、関節可動域と筋緊張だけではない要因の分析が必要である。

## 演題6「超重症児の短期入所を安全に受け入れるための取り組み」

めぐみ看護②研究班

2016年当園は新規の人工呼吸器(以後呼吸器とする)使用者2名を受け入れたが、受け入時に呼吸器使用方法がわからず病棟に混乱を生じた。スムーズな受け入れの

為呼吸器使用者個人マニュアルの原案を作成した。重症児者を安全に受け入れるために、最低限必要な情報を共通認識できるマニュアルの作成が必要である。吸器使用者を受け入れる施設は少なく、当園の担う役割は大きい。信頼される施設として、システム作りは重要な課題である。

## 演題7「つなぎ服廃止への取り組み」

ひかり介護④研究班

弄便行為があるということで夜間帯に前ファスナー付き介護衣(つなぎ服)を着用してきた利用者の現在の排便状況・状態を調査しつなぎ服が必要なのかを検討し、着用時間の短縮、廃止を試みた。その結果、夜間パジャマで過ごすことの試行を実施することができた。今後も利用者に対し原因と結果の個別化の検討が求められる

## 演題8「下肢の血行不良が見られる利用者への改善への取り組み」

ひかり介護②研究班

下肢の血行不良が見られる利用者に関係に着目し①運動前後(居室からの自力移動)②ベッド内で過ごす際③座位保持装置移乗前後カラスケール(血行チェック)・センサモジュール(表面温度の測定)を測定した。運動を行うことで

の血行促進を促すことには至らなかった。しかし、血行不良の改善に向けては、日常の生活場面での課題にきづくことができた。

## 演題9「高栄養食品を用いた食事を減らす方法の検討」

給食サービズ研究班

重症児者は摂食嚥下が困難であり、更に近年高齢化により食事量の減少がみられる為高栄養食品を用いて食事の負担を軽減する方法を検討した。安定的に摂取できるパン粥を選択したが、食事量の減少には繋がらなかった。今後もピタミン・ミネラルに富む「コンク牛乳」の導入を検討し、全員が毎日摂取するもので、味や分量など安定的に摂取できる方法を更に考えていく必要がある。

## 演題10「めぐみ棟における不適切な支援について考える」

めぐみ介護研究班

平成24年障害者虐待防止法が施行され、当センターでは前年度までの2年間、各研究班が不適切な支援についての実態調査を行った。その考察に基づき病棟内で意識を向上させる取り組みや職場風土を行った。「呼称」だけでなく、その他の不適切な支援の解消にもつながった。身近なことから「人権」「人格」「かけがえない存在」を大切



支援者からの声

大富教会員 金子 純雄



「人が人とされ、人になっていく場」

昨年9月と今年の3月の二度にわたって久山療育園を訪れる機会をいただきました。前者は創立40周年記念開園祭とそれに続く全国支援者会議に参加するためでした。開園祭や支援者会議の様子は本誌186号にも記載されていますので此処では割愛しますが、8名の入所者を中心に、通園事業や地域生活支援も含めて多岐にわたる活動の一端に触れ、40年前の創設期を知る者の一人として、よくぞここまでと言う感慨と感動を新たにしました。スタッフや職員の方々は言うまでもなく、実に多くの人々の愛の労苦と、その背後にある主の豊かな御愛顧を思い、感謝のほかはありません。二世代にも及ぶ40年という歳月は、イスラエル民族の荒野の旅の思い起こさせます。それは容易な道ではなかったはずで、様々な試練に直面し、困難な課題に取り組みながら、今日に至った40年を感謝なしに語ることはできません。

新年度を前にした今年の3月には、法人の定款変更に伴って新たに設けられた「評議員の選任・解任委員会」が開かれ、理事会から推薦された13名の新評議員が選任されることになりました。「愛の手を」前号でも山田理事長が触れておられるように、法人経営のガバナンスの強化や経営の透明化、公益性や公共性を担保するために改定された社会福祉法に基づく法人評議員の設置義務と権限の強化という要請がその背後にあります。久山療育園では当初から、運動体としての性格を保持し、設立理念の検証を怠ることなく、幅広い支援体制を確保していくために評議員の存在と役割を重要視してきた経緯があります。ですから、評議員重視には異論はないものの、公益性や公共性を担保するための権限強化という社会福祉法の規定には当初、若干の違和感がありました。法人事業体としては止むを得ないことでしょう。事業体には事業体としての論理があり、責任や権限のルール化は避けられません。しかし、それが無機質に行使される時に、そこでは所謂「律法主義」が台頭し、非人間化が進められることになり、非人間化が進められることを願って設定された法は尊重されるべきですが、法の精神を歪めずに実現していくのは間違いない「人」です。

その「人」について考える時、わたしは「人間になっていく教育」と言うある人の言葉を思い起こします。福祉も同じでしょう。わたしたちは、それなりの力があるから無力な人や気の毒な人

を差し伸べる事が出来るのではなく、出会いを通して相手から教えられる、独善や孤立から救われて、人として歩み出すことが出来るのだと思います。

この運動に関わらせてもらうようになった頃、わたしは障害を担った人と健康な人が共に生きる共同体「ラルシェ」の創始者ジャン・パニエを知り、その著書を通して大きな感銘と示唆を与えられたことを思い出します。友人に誘われた彼はある夏、障害を負っている人と共に過ごし、無力だからこそ相手に身を委ねずにおれない人の無条件な信頼に生きる姿に大きなショックを受けました。なまじの力にものを言わせて競争社会を乗り切ろうとして疑心や不安を抱かずにはおれない自分自身に気付かされ、「人間として生きる」道筋として、彼は大学教授の職を投げうってラルシェ運動に身を投じることになりました。

「久山」もまた、その営みを通して、信頼を学び、共に生きる世界を広げて行く大きな運動であり、実験だと言えるのではないのでしょうか。文字通り徒手空拳で施設建設に取り組み始めた頃、「信頼こそがわたしたちの財産」と言い交わしながら運動を進めた頃のことを懐かしく思い出しますが、過去の思い出に留めてはならないでしょう。

にしていきたい。

演題11「反芻遊びに代わる環境設定」

ひかり介護③研究班

反芻行動のある利用者反芻の原因となる事を入所時から現在までカルテから調査し、昼食時の関わり方を工夫し昼食後の環境設定を行った。幼いころから反芻の感覚を知っており今回の研究で反芻の減少にはつながらなかったが、反芻行動に代わる遊び、環境を提供することはできた。反芻を「問題行動」にとどめるのではなく、習慣や遊びと広くとらえ行動変容に務めていくことが大切な事である。

演題12「第2療育室稼働後 1年半が経過して現状と課題」

在宅支援研究班

2015年7月グループホームの開設に伴い、第2療育室が稼働し始め、通所の利用者が1.5倍となった。療育室に二つに分かれ、療育の形や、職員の配置も変わる事になった。通所の現状を振り返り、通所の役割を見直した。今後医療の必要性は増すことが予測され、医療介護度が高くなっても、安心して利用でき、必要な医療が受けられる様に、支援していく必要がある。

演題13「不安を抱える利用者への関わり方を考える」

ひかり介護①研究班

以前より不穏状態が出た際に興奮やパニック状態を繰り返していた利用者が、近年不穏時の様子等が変化し、同対応では困難になってきた。本人の不安を軽減できるようサポートブックで関わり方を統一したが不安や不穏の減少にはつながらなかった。今後は様々な支援方法を考えると共に、スタッフ個々のスキルアップを含めて対応し楽しみを持って生活を送る事は精神的安定を図る事が必要となる。

演題14「職場環境の改善」私が変われば周りも変わる」

管理棟研究班

事務部職員のストレスや職場環境の問題点をアンケート調査で抽出し職場環境改善に向けた研修会を実施し研修前後に自由記述式のアンケート調査を行い月間目標を設定後個人目標も設定し改善に取り組んだ。各自が抱える内面的問題や課題を知る機会となった。その改善策として、個別面談、時間外労働状況調査、全職員を対象にした「従業員満足度調査」等の実施が有効である。

## 第四回 久山デイ

4月22日(土)平尾バプテスト教会大名クロスガーデンで久山デイが快晴の内、開催されました。外を通る方が、花の飾りやポスターを見て、何かあっているのか読んでいました。

室内ではトリオの演奏や、にわか、手話ダンス、ピアノ等の素晴らしい催しがあり、とても良い気分度過ごす事が出来ました。司会の伴さん、お疲れ様でした。

お昼の食事「カレー、筍ごはん、焼ソバ」等とてもおいしく頂きました。販売は、陶芸をなさる方がたくさん出品して下さい、ヤマメの燻製を多く出して頂いたり、手作り惣菜等も早く売り切れ、袋物、編物、雑貨、色んな物品で収益を上げる事が出来ました。

チャリティーボックスにもたくさん入金して頂きました。

多くの方々のご協力で無事終える事が出来、感謝致します。又、来年も一同にお目にかかれまます様楽しみにしています。

(ボランティア 井上安子)



## 久山療育園のために 2017チャリティコンサート



毎年たくさんの方に聞きに来て頂いている「久山療育園のために」チャリティコンサートは、回を重ねること19回目となり、昨年度まで6年間に渡り開催した西南学院大学チャペルから会場を移し「西南コミュニティセンター」での開催となりました。会場確保や運営にあたっては学校法人西南学院事務局長でもある高良研一運営委員の協力も得て2月25日(土)の開幕を迎えました。コンサートの冒頭では伊原幹治バプテストコロニー友の会会長が来場感謝の挨拶をといのちの尊さについてのアピールを行い、続いて昨年40周年を迎えて新たに制作された久山療育園紹介のDVDの上演が行われた後、演奏が開始されました。

今年北九州市の南小倉バプテスト教会の牧師でアルゼンチンタンゴの演奏者としても名高い谷本仰さん、自主保育グループでの音楽も担当するジャズピアニストの中島由紀子さんを演者にお迎えして、安らぎと神様の恵み、いのちの大切さを共有する音楽空間を分かち合うことが出来ました。

有名なバイオリニストの葉加瀬太郎氏の兄弟子でもある谷本牧師のエネルギー溢れる情感の中にも心の奥深くに染み込んでくる優しいバイオリンの音色やヴァイカル、百均おもちゃも利用してのパーカッションと、その谷本さんが全面的に信頼してデュオを組む中嶋由紀子さ



熱演の様(上)  
と  
終了時の花束贈呈(下)



んのピアノは、ボサノバ調の「飼い主我が主を」に始まり、「私の青空」等のスタンダードナンバーや讃美歌をベースとした楽曲がアンコールまで合計12曲が奏でられあっという間に時間が過ぎた印象でした。

今回コンサートで奏でられたメロディや歌詞の奥には、終始「厳しい時代や世相の中にあってもいつも希望を持ち続けよう」というメッセージが添えられていたような気がします。

会場がコンパクトになり運営面では多少の不安も抱えながらの準備から開催となりましたが、結果的には諸教会、西南学院を始めとする多くの関係者のご賛同、お二人の演者の献身、運営委員間の協力により久山療育園への支援と理解の場を得る事ができました。

ここに大きな感謝と共にご報告致します。また来年もお会いできますように。

(バプテストコロニー友の会協力委員/久山療育園法人事務局長担当課長 馬原哲治)

## めぐみ棟の活動

### 「イースター」

入職してから早くも一ヶ月が過ぎようとしています。そろそろ利用者様のお名前や病棟の一日の流れなどを覚えてきて慣れてきたように思えます。私たちはめぐみ棟で看護師として勤務しています。

先日のイースターでは新人総出で『イースターの妖精さん』としてうさぎや全身タイツなどの仮装で皆さんの前に登場。まずは旗上げゲームの始まりです。「♪赤あげて♪白あげて♪」と始まり、だんだん難しくなっています。終盤ではアインやかとちゃんへなど旗上げではなくなり会場は大盛況でした。

そして、新人の自己紹介です。好きな動物や趣味など「え？そうだったの？」と意外な一面や面白い一面を知ることができてとても楽しかったです。その後、利用者様と一緒にエッグハントのスタートです。ピンクやグリーンなど様々な色のエッグカプセルを探します。卵を見つけた時に「あったー！」と利用者様よりも喜んでいる職員の方々をみてとても微笑ましかったです。利用者様もみんなにここでもとても楽しいひと時を過ごすことができました。

そんな中イースターは何故卵を探すのか疑問に思っ調べてみたので報告させていただきます。そもそもイースターとは日本では「復活祭」や「復活節」と呼ばれているそうです。イースターの由来は、イエス・キリ

ストが金曜日に十字架にかけられて亡くなった3日後に、復活したことを祝うお祭りだとされているそうです。さて、本題のイースターエッグですが、昔から卵は豊穡という意味を持ち、長い期間を経てから新しい命が誕生することから「復活と死」、「生命の象徴」と考えられてきたそうで、キリストが復活したと重なることから卵が使われるようになったそうです。

また、イースターは春の訪れを祝うという意味もあるそうです。この日はポカポカとあたたかく桜も満開で春を感じることもできました。皆さんでイースターと一緒に祝いすることができ、とても充実した一日になりました。

(めぐみ棟 看護師 石原美月・宗こころ)



### 「大石さんへ」

この度は、思いがけず大石久美さんのご逝去の報に接し、ご遺族はじめ皆様のご心中お察し致します。今春始め、大石さんと私の悩み事は、中学入学を迎えるにあたって、「入学式で何着よう？」でした。スタッフと相談し、お姉さんから送って頂いた水色のワンピースとショールの春らしい装いで無事、入学。旅立られる4日前の事でした。2回の骨折を乗り越えましたが、呼吸状態の悪化など体調は一進一退が続きました。今年になりひかり棟スタッフからたくさんのアルバムが届けられアルバムをスタッフと見る姿をよく見かけました。

早春、様々なスタッフが庭先の花を摘んでは大石さんのベッドサイドに飾ります。ベッドサイドは冷たい医療機器ばかりでなく温かい写真やお花で飾られ、穏やかな日々の中にも深刻な状況が続いていました。

そして、旅立ちの日を迎えました。私は夜勤明けで早出看護師に引き継ぎました。この6時間後、旅立たれたそうです。

最後に看取ったのは、ベテラン看護師と若手看護師。たくさんのスタッフに囲まれて静かな最後だったそうです。私はその看護師と今回の事について話しました。「大石さんには色々な事を体験させて頂き、たくさん勉強させてもらいました。」と答え、「貴重な体験をさせてもらっ

た久美さんに感謝だね。」と二人で微笑みました。

奇しくも、この日は久山療育園のイースター。久美さんが生命をかけて伝えてくれた生き抜く力は、スタッフみんなに伝わったと思います。体験をさせて頂いた尊い教えをこれからの活動に生かしていきたいと思えます。大石久美さん、貴重な教え本当にありがとうございました。久美さん、今年のごさびなごさびな。今年も御空の上からあの水色のふわふわワンピースで久山療育園を見守って居て下さい。

(めぐみ棟 看護師 長澤涼子)



# ひかり棟の活動

2017年4月2日、福岡工業大学付属城東高等学校のチアリーディング部BLUE ANGELSの皆さんが来て下さり、素晴らしいパフォーマンスを披露して下さいました。初めて間近で見る女子高生のチアリーディングの演技に期待に胸を膨らませながら、めぐみ棟、ひかり棟、ケアホールからみんなで交流ホールに集まりました。入念な打ち合わせの後、一緒に演技中の掛け声「ひさやまー！うーいーくえん！ゴー！フアイト！ウイン！」を練習して、いざ演技スタート♪

青と白のBLUE ANGELSと書かれた素敵なユニホームを身にまとった選手達は、まさに天使で、音楽に合わせて終始笑顔で元気な掛け声をしながら、息の合ったダンスと次から次へと空中を使ったアクロバットな技を見せて下さり、観客みんな驚き興奮しっぱなしでした。

利用者さんも一緒に掛け声をしたり、選手一人一人の名前を書いたうちわや楽器を持ったりしながらパフォーマンスを楽しみました。演技終了後、BLUE ANGELSさんの活動の様子や選手一人ひとりから自己紹介で好きな食べ物や聞く時間があつたり、その後、アンコールをお願いすると快く引き受けて下さり、全く疲れを見せず、明るく元気で力強い演技に再びみんな興奮と感動に包まれました。

最後に利用者さんから今日の感想を伝え、1人ずつに利用者さんからうちわをプレゼントして、みんなで記念撮影！新年度の始まりに相応しい素敵な出会いをいただき、感謝なひと時でした。

BLUE ANGELSの皆さんは、博多どんたくでも演技をする予定で、これからいくつかの大きな大会に備えて、また練習していくそうです。久山療育園一同また会えるのを楽しみにしつつ、みんなでこれからも活躍を期待し応援しています。BLUE ANGELSの皆さん、本当にありがとうございました。



元気いっぱいのエールありがとうございました♡

## 「福岡特別支援学校訪問教育 卒業式・入学式」

### 平成28年度 卒業式

3月3日に高等部の卒業式が福岡特別支援学校と久山療育園で行われ、草場雅文さん、荻本明美さん、高尾宏子さん、高木健太さんの4名が高等部を卒業されました。

高木健太さんは、本校で卒業式に参加され、呼名に元気よく「はい」と返事をし、卒業証書を受け取る姿が印象的でした。草場雅文さん、荻本明美さん、高尾宏子さんも式の前は緊張した表情でしたが、しっかりと卒業証書を受け取り、式の終わりに参加した方々からの祝福の言葉を受けて微笑まれました。在校生代表として参加した高等部2年の鶴田力斗さんも明るく元気に送辞を行いました。

翌週3月10日には、小学部の卒業式が久山療育園で行われ、小学部からは大石久美さん、中学部からは桃野光男さんが卒業されました。

中学部の桃野光男さんは、緊張した面持ちながらも素敵な笑顔が浮かべ、式に参加され、答辞では中学校生

活での思い出を伝えてくれました。

小学部の大石久美さんは、新年度から中学部に入学するために、3月に編入されました。ベッドサイドにて卒業式を行いました。4月から新たに始まる学校生活に心待ちにしている様子でした。

卒業生の皆さんが日々の学習活動に安心して取り組み、無事卒業を迎えることができたのも、保護者の皆様を始め、久山療育園の職員の方々の細かいご配慮、ご協力、ご理解のおかげです。心より感謝いたします。

### 平成29年度 入学式

今年度、訪問教育では、小学部に大石久美さん、高等部に馬場崎喜代香さん、桃野光男さんの計3名の新生を迎えました。心よりお祝いを申し上げますとともに、福岡特別支援学校訪問教育職員一同、心より歓迎いたします。

入学式は、4月7日に久山療育園地域交流ホールで感染予防のため、病棟ごとに行われました。とても和やかで、喜びに包まれた式

となりました。在校生代表として、高等部3年に進級したばかりの鶴田力斗さんが、明るく元気に「新入生歓迎のことば」で新入生を迎えてくれました。新入生はそれぞれ緊張した表情ながらも、「新入生のことば」として、学校生活を楽しみにしている気持ちを伝えてくれました。

いよいよ新学期です。今年度の福岡特別支援学校の訪問教育は、小学部3名、高等部7名の計10名、そして訪問教育職員は4名でのスタートとなりました。楽しく充実した学校生活を送れるように取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。

4月11日に先日小学部に入学された大石久美さんがお亡くなりになりました。学校生活を楽しまれていただけに残念です。心よりご冥福をお祈りいたします。

福岡県立福岡特別支援学校訪問教育職員一同

# 通所で頑張っています



もち前の器用さを発揮中!

古賀豊さん、66歳。豊さんは、在宅支援センター重症者ホームに入居されており、日中の生活介護の場として久山の通所を利用されています。通所を利用する前は約40年間、当園のひかり棟で生活されていました。

通所に通い始めて3年。昔から皆に愛されている豊さんは通所の人気者です。たまに見せるイタズラと目を細めて笑う姿は、周りを和やかな雰囲気させてくれます。

療育活動では制作やゲームになると手先を器用に使うとみんなをアツと驚かせてくれます。

また、昼食の時間になるとスプーンでご飯をすくって勢いよく口に運び、食後にはコーヒーをじっくりと味わうなど食事が大好きです。

他にはコマやプロペラ、タイヤなどクルクルと回るモノが好きで、よく眺めては何度も転がし、手を叩きながら微笑むところも素敵な利用者さんです。

豊さんの愛されるところを挙げると切りがありません。私たち通所スタッフは療育活動を通して豊さんの素敵でチャームポイントなどを更に引き出していきたいように、今後もサポートをしていきたいと思えます。

園内で豊さんを見かけた時は是非声を掛けてみてくださいね!きつと素敵な笑顔を見せてくれるでしょう。

(通所 療育員 松元りか)

# 重症者ホームひさやまより



「ふれあいの舞台、イコバス」

## 移動支援利用の様子

2015年7月に重症者ホームひさやまに引越して生活の場が変わりました。

もっと施設の外への関わりたい、いろいろな体験をしたい、社会生活の広げたいとの希望がご本人からあり、移動支援を利用しようということになり契約する事になりました。

2016年3月から利用開始となり、まずは担当の方とホーム周辺を散歩しながら、関係作りから始まりました。外に出るのが大好きな仲野さんとはとても喜ばれ笑顔いっぱいでした。

担当の方との顔合わせも終わり、とても仲良くなる事が出来ました。4月からはイコバスを利用して2〜3時間のお出かけを楽しんでいます。1回目はイコバスのハプニングがあり、少ししか乗れませんでした。2回目からはイコバスの運転手さんもスムーズに対応できる様になりました。毎月1回、仲野さんのイコバスの旅が始まりました。運転手さんや他の乗客の方もだんだんと気にかけてくださり、クリスマスやバレンタインの季節にはプレゼントを頂いた事もありました。その日は満面の笑みで嬉しそうに帰ってこられました。

ホーム職員以外の人との関わりを持ち、移動支援という社会資源を利用し、イコバスという公共交通機関を使って、施設の外に出かけ、地域社会の中で人と関わりを持つ事ができ、人とのふれあいを体験する事ができました。それは今、現在も続いており、毎回来しみにされ、嬉しそうに出かけています。

(支援員 浦田秀文)

## 外来療育 宇宙

### 「お友達が増えたよ」

卒園式から半月たった4月17日に新しいおともだちが来られました。今年度からは火曜・木曜グループのお友達に加え月曜日に新しいグループを新設しました。

月曜日のお友達は1才から今年で3歳になる小さなおともだちのグループになります。活動も初めての子どもたちが多く、タツチンゴもどうぶつ体操も初めて聞く曲と動きにみんなキョトンとした表情や泣いてしまう子も。でも名前よびでは「ん?わたしのこと?」といった表情でチラツツと目で合図出来ました。少しずつゆっくと色々な活動を体験してみんなの笑顔が見られるといいな。

(保育士 原田太一)



外出や運動がんばってます!

### 新入職員さんの紹介

昨年の11月から今年の4月にかけて新しい仲間を19名お迎えいたしましたので紹介いたします。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについて
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ①磯部 菜摘  
(医師・診療部/医局)
- ②これまでと異なった環境での診療ですので、いろいろと学びながら、丁寧に診療したいと思えます。
- ③長所：基本的に何でも楽しめます。短所：想定外の質問が来ると即答できません。
- ④利用者さんや家族の方とは、小さなことでも相談していただける関係を築き、何でも一緒に取り組んでいきたいです。



- ①石原 美月  
(看護師/めぐみ棟)
- ②まだまだ覚えることがたくさんですが、利用者様に少しでも笑顔になつて頂けるように一生懸命頑張ります。
- ③長所：一つの事を続けることが得意です。短所：優柔不断不器用です。
- ④利用者様やご家族の立場に立つて考え、ご家族と同様の愛情を注ぎ、利用者様、ご家族の皆さんに安心して頂けるようにケアを行いたいです。



- ①宗 こころ  
(看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんに安全・安楽をお届けするために自分自身の知識や技術を磨き、日々精進したいです。
- ③長所でも短所でもありますが、おっとりしていることです。
- ④長所を活かして利用者さんやご家族さんに癒しを提供したいです。



- ①福田 紗里  
(看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんのちょっとした変化にも気づき、利用者さんが毎日元気に生活できるようにしたいです。
- ③長所：元気で明るい所です。短所：早起きが苦手です。
- ④利用者さんにやさしく寄り添い又家族とのコミュニケーションを計り、一人一人に合った関わりをしていきたいです。



- ①犬塚 美樹  
(療育員/めぐみ棟)
- ②利用者さんの笑顔をたくさん見たい。
- ③長所：いつでも前向き
- 短所：思い付きで行動してしまう
- ④家族の方に安心してもらえるように利用者さんに接する時も家族の方の気持ちを考えながら介助したいです。



- ①合六 朱美  
(療育員/めぐみ棟)
- ②活気のある生活を送って頂くように頑張りたいです。
- ③長所：物事を深く考えない
- 短所：せっかち
- ④ご家族との情報交換を密に行い安心して頂けるよう支援していききたい。



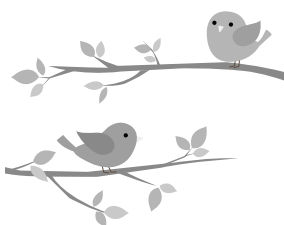
- ①原 里美  
(看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんとたくさん笑って触れあつてたくさん思い出を作りたいともいます。
- ③長所：原さんを見ると笑顔になる、元気になると言ってもらえる所
- 短所：こう見えても意外とナイーブで落ち込みやすいところ
- ④利用者さんと家族に寄り添い理解し合える関わり、関係がつかれていけるといいと思います。



- ①村島 未優  
(看護師/ひかり棟)
- ②笑顔と初心を忘れずに、日々学びを深め知識を吸収していきたいです。
- ③長所：前向きな性格です！
- 短所：細かい作業が苦手です
- ④相手の立場になつて物事を考え、また家族の想いを傾聴し、今の自分にできる精一杯の事を頑張りたいです。



- ①今駒 保彦  
(看護師/ひかり棟)
- ②安心・安全・安楽、そして笑いの提供をしたいです。
- ③長所：思いやり
- 短所：神経質な一面がある
- ④共に生きると云う精神を尊重し、信頼関係の構築に努めます。





①田淵 友和  
(療育員/ひかり棟)  
②覚えることがとても多いです。一つ一つ身に付けて成長したいと思えます。  
③長所:温厚  
短所:面倒なことを後回しにしてしまうところ  
④利用者的心思伝達を少しでも理解できるようにになりたい。



①岡村 典昭  
(療育員/ひかり棟)  
②利用者が日々明るく過ごせるように頑張りたいです。  
③長所:我慢強いところです  
短所:お酒が弱いです  
④要望や意見など利用者が満足出来るように取り組んでいきたい。



①多久島 真理子  
(療育員/ひかり棟)  
②まずは利用者のみなさん、職員の方のお名前を覚えて、仕事

内容・知識を身に付け、早く一人前になりたいと思えます。  
③長所:ポジティブ!  
短所:不器用です  
④家族の方から頼られる職員になり、利用者さんと毎日笑顔で過ごしたいです。



①吉田 規子  
(調理員・診療部栄養課)  
②まずは早く仕事を覚えていきたいです。  
③まじめで優柔不断なところもあります。  
④笑顔でお話ができるようになりたいです。



①古賀 麻衣子  
(ST/リハビリ課)  
②療育園の環境に早く慣れ、行動に目的を持って働いていきたいです。  
③長所:探究心が強い  
短所:不注意  
④利用者の方々に、他者と繋がるのが楽しいと感じて頂けるよう、殊にコミュニケーション面でお役に立てるよう頑張ります。



①河本 武美  
(調理師・診療部栄養課)  
②楽しく頑張ります。  
③長所:明るい  
短所:細かい作業が苦手です。  
④お食事を安心して食べていただけるように頑張りたいと思います。



①大谷 紗貴子  
(栄養士・診療部栄養課)  
②毎日安全でおいしい食事を提供できるように、頑張りたいです。  
③長所:探究心、追求心がある  
短所:飽きっぽい  
④利用者さんやご家族の思い出に残るような食事を提供したい。



①嶋田 千佳子  
(相談員・地域療育部)  
②皆さんのお話を笑顔でお聞きます。  
③長所:早寝早起き



①松本 利華  
(相談員・地域療育部)  
②様々な利用者の方に、安心して地域で暮らしていただけるよう、お手伝いしたいです。  
③長所:楽しいことが好きで積極的  
短所:すぐに調子に乗る  
④色々な課題があった場合は、利用者の方や家族の方と一緒に考え、悩み、より良い答えを見つけ出して行けたら、と思います。



①田中 紗妃  
(事務員・法人事務局/事務局)  
②的確かつ迅速に仕事をしたいと思えます。  
③長所:まじめ  
短所:運動全般が苦手です  
④利用者の方々に安心・信頼していただけるようなコミュニケーションをとりたいと思います。

短所:のんびりしすぎ  
④利用者さんやご家族に寄り添った支援をしたいと思っています。

職員の異動

採用

- ▽今駒保彦(看護師) 3 / 1付
  - ▽岡村典昭(療育員) 3 / 1付
  - ▽田淵友和(療育員) 3 / 1付
  - ▽田中紗妃(事務員) 3 / 1付
  - ▽磯部菜摘(小児科医師) 4 / 1付
  - ▽石原美月(看護師) 4 / 1付
  - ▽宗ころろ(看護師) 4 / 1付
  - ▽村島未優(看護師) 4 / 1付
  - ▽福田紗里(看護師) 4 / 1付
  - ▽多久島真理子(介護福祉士) 4 / 1付
  - ▽嶋田千佳子(相談支援員) 4 / 1付
  - ▽松本利華(相談支援員) 4 / 1付
  - ▽古賀麻衣子(言語聴覚士) 4 / 1付
  - ▽大谷紗貴子(栄養士・調理員) 4 / 1付
  - ▽河本武美(調理師) 4 / 1付
  - ▽吉田規子(調理員) 4 / 1付
- 【退職】
- ▽工藤克義(児童指導員) 3 / 31付
  - ▽原 粧貴(准看護師) 3 / 31付
  - ▽中野みゆき(相談支援員) 3 / 31付
  - ▽安里美沙希(栄養士) 3 / 31付
  - ▽宮嶋梢江(栄養士) 3 / 31付
  - ▽相野君子(療育員) 3 / 31付
  - ▽塚本剛弘(療育員) 3 / 31付

# ボランティア講習会の案内

○開催日時

・夏季コース 7月8日(土)

・秋季コース 11月11日(土)

9時30分～15時まで(※昼食はお弁当を用意しております)

○内容

- ・久山療育園と重症児者について
- ・ボランティア活動の紹介
- ・ボランティアさんの体験談
- ・保護者の体験談
- ・入園利用者との交流

重症児者へ関心をお持ちの方なら、どなたでも受講できます。どうぞお気軽にご参加ください。

ご質問・お問い合わせ先

092-976-2281(代)ボランティア担当 山田(建)まで



昨年度の講習会の模様から



## 共に働く仲間を募集しています



- ① 看護師
- ② 介護福祉士等 介護スタッフ

【連絡先】

久山療育園重症児者医療療育センター

TEL: 092-976-2281 (担当: 小脇)

## 歩行器



2017年度も新しいメンバーが久山療育園重症児者医療療育センターに呼び集められ、喜びと希望のなかで仕事に従事されている姿を見ると、我々も大いなる刺激を受けています。

昔から今の時期になるといわゆる「5月病」が問題となります。最近の一般的風潮としてせっかく入社しても早期離職する傾向が顕著になっていきます。この5月病のことを最近では「自分探し症候群」とも言われています。彼らは自分がやっていることに脈絡がなく、中途半端で決断ができないなど、自分が最良の選択ができていないという意識を常に持っているといわれています。

この原因として ①他人の意見に左右されやすいこと ②自分の長所に気づいていないこと ③地道な努力もしないから失敗をするし、その失敗から何も学ぼうとしないこと ④現実の困難な仕事から逃げて無理をする ⑤他人の評価を気にかけ、プロセスよりも結果を重視することなどが挙げられています。

久山療育園重症児者医療療育センターは社会福祉法改正の施行により、経営ガバナンスの強化や内部統制の充実、人材育成・処遇改善及び公益サービスの提供などがこの法律により規定され、従来とは大きく前提条件が変化しています。

医療福祉分野の拠って立つ基盤は何と言っても「人材」です。一人ひとりが神様から付託された賜物を与えられた場所で最大限活かしつつ、神の御旨が何であるかをわきまえつつ、自分を愛するように入所者や保護者等を愛して職務を全うすることこそ我々が求められている最善の選択ではないでしょうか。

(M・U)